

大木中学校区・合同学校運営協議会 事項書

令和7年11月25日（木）

16:00～

大木中学校会議室1

- 1 研修テーマ「こども権利条約、こどもの人権について」
- 2 講 師 鈴鹿市教育委員会事務局教育支援課 人権教育センター
原 裕 先生
- 3 研修の流れ
 - (1) 開会行事 大木中学校運営協議会委員長
あいさつ
講師紹介
 - (2) 研修
 - (3) 質疑応答
 - (4) 各校意見交換 及び まとめ
 - (5) 閉会行事

大木中学校区・合同学校運営協議会のご意見・ご感想

お名前_____ 長太小 箕田小 若松小 大木中

(※所属を○で囲んでください。)

[illegible]

※運営協議会終了後にご提出いただくか、又は、各学校教頭までご提出をお願いします

参加された委員の主なご意見・ご感想

①良いお話を聞く機会を作っていただきありがとうございました。子どもの「安心・自信・自由」を重んじることの必要性は理解するものの、社会的な規範から反する行動（行為）に対する指導（叱る、怒る）の難しさを知りました。子どもの主体的な権利を考慮するあまり「ふれず、さわらず、近づけず」で子どもに寄り添うことから距離をおくようになるのではないのでしょうか？難しいですね。

②子どもの現状が良くわかった。ようやく、鈴鹿市こども条例が制定されたので今後、教育の場面、家庭、地域社会においても見直しをしながらできることから具体的な取り組みを進めていきたいと思った。
大人が子どもの思いや声をしっかり受け止め、一緒に考えていく姿勢は大事であると再確認した。

③子どもの現状から、分かりやすく教えて頂きました。本校の子どもの現状について学運協で話し合っていきたいと思います。
自分の感情を出せない子やうまく表現できない子が多いように思いますので、「いま、どんな気持ち」の資料を積極的に活用していきたいと思います。

④ 4つの原則

差別の禁止

子どもにもっともよいことを

生きる権利 育つ権利

意見を表す権利

- ・まず、子どもたちと信頼関係を作ることが大切だと思う
- ・子どもたちと話をする関係が必要だと思う
- ・本音で話し合える環境づくりが必要ですね

⑤子どもの現状：10代の自殺者が多いのは、どうしたらいいか。対策を考える必要あり。不登校でも中学生の自殺は進路への悩み。

人口の現状：若い方が少なくなっている。労働力の確保。

→子どもの減少は、止められるものではない。僕は働いているが、子どもたちのために何かをしてあげたい。

子どもの権利条約：4つの原則・差別の禁止・子どもにもっとも良いことを・生きる権利、育つ権利・意見を表す権利

→今まで全般的な子どもについて考えたことはなかった。僕の子どもの頃は周りの人からも声をかけてもらってようです。その環境を作ることが大切。

非認知能力→初めての言葉であったが子どもたちの能力を伸ばしてあげることが大切です。

⑥60年の人生を振り返してみると、様々なことに変化がありました。高度成長→バブル期→現在、ある意味豊かさでは低下したように感じますが、大きく変わったと、向上したことは、人権ではないでしょうか？まだまだ十分とは言えませんが、自身の子ども時代に比べ、人権の意識は高まってきたと思います。今後も子どもを取り囲む全ての世界の中で、子どもの権利が守られるよう、社会全体で取り組む必要があると思います。

日本だけでなく、世界を見渡しても、まだまだ、改善すべき事がたくさんありますが、人権の学習を通して住み良い社会、世界にしていきたいですね。

講師の先生ありがとうございました。

普段、養育に苦慮していますが、まずは、子どもの気持ち、話を傾聴することを大切にしていきます。

⑦人権教育の重要性を改めて知る機会となりました。今年から、運営協議会に参加させていただいておりますが、地域における活動を通じて、子どもとの関わりを大切に活動していきたいです。

今後ともご指導をよろしくお願いします。

⑧子どもとの関わり大切さがよくわかりました。子どもの人権について、色々聞くことができました。子どもの考えている事を引き出していく、大人の努力も必要かと思いました。

自分に何ができるか、何をしてあげるか、とても難しい問題ですが、少しずつ取り組んでいこうと思いました。貴重な勉強ができて良かったです。

今後の仕事の参考にしていこうと思います。

⑨子どもたちの思い、声を聞くということ、言葉にならない声、思いを聞き取る力を大人が磨いていこうと思いました。

毎日、日々、子どもは大きく変化していきます。(行くように思います)

大人一人ひとりが、子どもに「こんな大人になりたいなあ」と思われるような言動を見せていくことも大切だと思いました。

子どもの精神的な環境をよくするためには、まず、「家庭＝大人」の精神的な環境を整えること、このように知ること、学ぶことが大切なことや人や物を守ることにつながるとすごく感じました。

⑩「こどもの権利」日常生活でもよく耳にするようになりましたが、具体的にどのようなものであるか、全然理解できてなかったです。詳しく教えていただき、とても、ありがたいです。

わが子を含め、地域の子ども達への接し方を改めて考えないといけないなあと思いました。

⑪子どもが悲しそうなとき、その裏に何があるのか？

その子どもの話をまず聞くことが大切であると感じた。

子どもの権利条約は詳しくは知らなかったので、とても良い機会でした。

⑫子どもの事例紹介がとても良かったです。

例に伴って講師の先生が説明される大人の良い・悪い対応がとても分かりやすかったです。

⑬今日は原先生から「子どもの権利条約から学ぶ～」について、わかりやすく丁寧にお話していただきました。

私たちが育った時代、私たちが子育てした時代、そして今の時代・・・

なぜ「子ども権利条約」が必要かな・・・と思っていましたが、お話を聞いて子どもたちが幸せに、安全に成長できるよう、大切な「子ども権利条約」なのだ・・・とあらためて思いました。

生きる権利・・・命が守られていること、育つ権利・・・安心して生活でき適切な養育を受けられる、守られる権利・・・暴力や虐待から保護される、意見を表す権利・・・意見や社会参加できるように、いろいろと考えてしまうお話でした。今日勉強させていただいたことをこれからの活動に、孫育てに役立てたいと思います。

また、原先生のお話を伺いたいです。ありがとうございました。

⑭鈴鹿市こども条例のお話ということで、興味深く聞かせていただきました。

30年くらい前に批准された児童の権利に関する条約がようやく市民レベルまで近寄ってきたことは、不思議な気もしますが、今こその理念が大切であることがお話を聞いてよくわかりました。少子化や子どもに関わる諸問題は複雑化しており、幸福感を味わえない子どもたちがたくさんいることは、私たちのこれからの暮らしや社会にも大きく影響してくることと思います。私たち教員も運営協議会の皆さんとともに地域の皆さんや保護者に周知して子どもの権利、人権を保障していく必要性を感じることができました。

⑮近年では、外国人住民の割合が多くなり、三重県も全国で上位になっていることに驚いている。

ただ、日本で生まれ育った子どもたちであれば、日本の環境に慣れており、日本語の習得も容易であろうが、就学途中に家族で日本に入国した場合は日本語がわからず孤立してしまう。

子ども達を含む外国の方々への対応については、日本語の教育や生活習慣を教えるなどに力を注いでいくことで差別やいじめを減らしていけるのではないかなと思う。

【質問】

・原先生の講演の最初の方で提示していただいた子どもの幸福度ランキングに、アメリカ・中国・インド・パキスタンなど人口の多い国が表に入っていないのは、政治的なものなのか、統計学的に問題ないのか何かご存じでしたら、教えてください。

【回答】

・お答えします。

ユニセフの「レポートカード 19」は、経済協力開発機構（OECD）38 か国と、欧州連合（EU）27 か国に加盟する、先進国の子どものウェルビーイング（幸福度）を比較・分析することを目的としており、調査対象国が限定されています。そのため、OECD や EU に加盟していない中国やインドは、調査対象国に含まれていません。また、アメリカは OECD 加盟国ですが、今回の調査では完全なデータが揃わなかったか、あるいは分析上の要件を満たさなかったなどの理由が考えられます。

中国やインドのような多くの人口を抱える国々の子どもの状況については、別のユニセフ「世界子供白書 2025」などの報告書で、こどものウェルビーイングが分析されています。